

令和6年度 鶴岡市郷土資料館運営委員会 会議録

○日 時 令和7年1月31日（金）14：00～

○会 場 鶴岡市立図書館本館 講座室

○出席委員 阿部博行 渡部幸 齋藤和久 本間豊
升川繁敏 黒羽根洋司 森木美穂

○職員 館長：五十嵐恭子 館長補佐：今野章
図書主事：鈴木ひより 社会教育課長：沼沢紀恵

○公開・非公開の別 公開

○傍聴者の人数 0人

1. 開会
2. 館長挨拶
3. 報告・協議
 - (1) 令和5年度及び令和6年度郷土資料館運営報告について
 - (2) 鶴岡市立図書館新館整備事業について
 - (3) その他

〈協議内容〉

(1) 令和5年度及び令和6年度郷土資料館運営報告について

委 員： 荘内日報以外に、デジタル化作業が進んでいる資料はあるのか。

事務局： 石原莞爾の直筆資料、写真類、手紙類は平成25年度にデジタル化した。また、城下絵図等の古絵図もデジタル化している。

委 員： 職員の資料への理解が進んでおり、閲覧したい資料をすぐに出してくれて非常に助かっている。資料が分かる職員を大事にしてほしい。

委 員： 以前は未整理資料の多さが問題となっていたが、職員の尽力により、利用者が円滑に利用にできる段階まで整理が進んでいて大変素晴らしい。

事務局： 郷土資料館に置いている資料は、8割ほど整理が完了している。次は、元小堅小学校にあった史資料の整理に取り組む予定。また、整理資料については、閲覧用パソコンで横断検索が可能となった。年号・人名等のキーワードを入力すると、該当資料を確認できる。利用者が必要な史資料を探しやすい体制を整えている。

委 員： AIが古文書を解読してくれるアプリがある。正確性という点で、全てを読んでもらうことは難しいかもしれないが、年号や年代の読み取りには使えるのではないか。多くの職員を雇うことは大変

な時代なので、そうした技術を活用することも視野に入れてみてはどうか。

委員：郷土資料館と致道博物館が、同時期にワッパ騒動の企画展を行っていたが、大変良い試みであった。展示資料やテーマに違いがあり、両方見ることでテーマについて、より理解を深めることができた。今後もぜひ共同した展示を検討してほしい。

(2) 鶴岡市立図書館新館整備事業について

委員：郷土資料館運営委員会は、教育長に委嘱された委員から成る組織。新図書館の整備にあたり、郷土資料館の必要性を検討する上では、運営委員が意見を述べる機会を設けるべきだと思う。整備に向けた検討は、郷土資料館を考慮しながら進めてほしい。

事務局：鶴岡市では、図書館と郷土資料館を同じ施設内に置き、運営してきた点が特色となっている。そうした、これまで積み重ねてきたものも大事にしていく方向性で考えていく予定である。

委員：現在のように、図書館と郷土資料館は一緒に運営していく方が良いだろう。

委員：新図書館が建った後の現・図書館の活用は考えているのか。

事務局：新館の検討と併せて考えている。

委員：建設までのスケジュールはできているのか。

事務局：基本構想の中で提示する予定。

委員：企画懇話会の委員も務めている者として、これまでの会議を通じて、郷土資料や郷土資料館の重要性や特徴については、共通認識として持っていただけたという実感がある。今の流行りとして、図書館が商業施設と一緒にいる傾向があり、実際、若い委員の方から、人を呼び込むためのアイデアとして、そうした施設を併設するという意見も出た。

ただ、最終的には、図書館の役割は、充実したレファレンス機能を備え、市民の学びの場であるべきだということでもとまると認識している。

他の図書館の委員されている方にお話を聞くと、イベント頼みで何のための図書館なのかが曖昧だ、との意見を伺うことがある。委員として任命いただいた限り、鶴岡市では食い止めたいという思いはある。また、郷土資料館と併設であるからこそ、幅広い世代の人が使える、頼れる、居場所になる、という考え方で基本構想がまとまってきた、と捉えている。

委員：図書館にどのような機能を想定して造っていくのか、よく検討することが大事。鶴岡市には、歴史的な場所や建物などがあちこちにあり、それらを裏打ちする史資料も多く残されている。この歴史という財産を、さらに統計化、体系化することで、今後も利用してもらえる施設になると思う。

事務局：基本構想において、郷土資料館では図書館の地域資料と郷土資料の一体性を大切にしながら、今後も史資料の収集・保存・活用を行うとしている。具体的な方向性は、来年度の計画の中で考えていくことになり、改めて委員の皆様にご意見をいただくとおもうので、その際はよろしくお願ひしたい。

委員：鶴岡市立図書館では、入り口を入れて程近い場所に児童書があり、2階にある古文書等の史資料でさらに深掘りして学ぶことができる。施設内で興味関心に添った深い学びを提供できる点が大きな強みである。

委員：複数の課が関わる共同事業において、図書館は文化の中核施設として、歴史的背景に基づいた専門的な助言を行い、それぞれの見解や方向性を共有できる機能を担うことが考えられる。

委員：現在の、図書館と郷土資料館の併設によって、施設内で一般の歴史書と郷土資料の閲覧が可能

になっている。様々な資料に触れることで、見識が広がり、学びを深めることができる。そうした学びができる施設であるためには、図書館と郷土資料館はセットで考えるべきであり、分離することはできないだろう。これから必要な図書館は、学びや文化のセンターとしての図書館。今まで積み上げてきた財産を活かした、鶴岡らしい図書館を目指してほしい。

委員：郷土資料や郷土資料館の意義を知らない人に、どのように働きかけていくかが、新図書館構想の大きなポイントになるだろう。

委員：書架にある本を出して読んでいる人をよく見かけるため、郷土資料の開架と閲覧スペースは必要だろう。また、市史編纂室も必要である。他の施設や機能との兼ね合いがあると思うが、郷土資料館として必要なものを伝えていくことが重要である。

委員：本市の郷土資料館は、資料館として優れており、全国的にも注目されている。今後も、資料館を継続・発展させていくため、委員の声を図書館構想に活かしてほしい。

事務局：構想を作成する上で、様々な方に来館していただいたが、「市町村規模でここまでのレベルの資料館は貴重である」という評価を得ている。

委員：信頼を得ることができているから、寄贈してもらえるのだと思う。今後も信用を維持できるような、設備や人員が整った場所であってほしい。

委員：人員という面では、専門スタッフの増員を考えてもらいたい。

委員：博物館と図書館、資料館は関係性が深い施設である。円滑な連携を続けていくために、新図書館は文化施設に近い場所にあった方がよいと思う。